

“地域の誇り”未来の産業を育てる
～ひと、まち、自然が調和するまち・おこっぺ～

位置

稚内
名寄
旭川
紋別
網走
釧路
千歳
札幌
函館

興部町

東京国際(羽田)空港

○ JR線
— 定期バス路線
- - - 旭川〜紋別間バス
- - - 航空路(紋別〜羽田)

オホーツク線
部、オホーツク
東は紋別市、
町、北西は加
34.2km、南
362.55km²

オホーツク総合振興局管内の北西部、オホーツク海の中心部に位置し、東は紋別市、西は西興部村と滝上町、北西は雄武町に隣接し、東西34.2km、南北24.4km、面積は362.55km²に及びます。

札幌市まで約290km(約5時間30分)
旭川市まで約150km(約2時間30分)
稚内市まで約200km(約3時間30分)
網走市まで約130km(約2時間30分)
紋別空港まで約30km(約40分)

紋別市まで約30km(約40分)
名寄市まで約70km(約1時間30分)

名寄市から札幌市まで約220km(約2時間30分)

ナナカマド
(昭和63年10月1日制定)

ハマナス
(昭和63年10月1日制定)

発行／興部町 住民課 広報統計係 企画制作・印刷／株式会社須田製版 旭川支社





興部町民憲章

わたくしたちは、雄大なオホーツクと緑ゆたかな自然に恵まれた興部の町民です。
わたくしたちは、先人の偉業をたたえ、このまちに住むことにかぎりない喜びと誇りを持ち、明るく豊かなまちをつくるため、ここに町民憲章を定めます。

- 一、健康ではたらき、楽しい家庭をつくります。
- 一、きまりをまもり、明るい社会をきずきます。
- 一、自然を愛し、美しいまちをつくります。
- 一、教養を深め、かおり高い文化をそだてます。
- 一、未来に夢をもち、豊かな郷土をつくります。

昭和49年11月3日制定

発刊にあたって

興部町長 谷 一寿



高度経済成長、バブル、そして失われた30年と、戦後の日本は僅か80年足らずの間に劇的な変化を体現してきました。一次産業主体の興部町は、林業の衰退と相まって都市インフラ整備や産業の担い手として、多くの人口を送り出してきました。結果として、最盛期9千人台の人口は3500人へと減少しましたが、農業や漁業は大型化・機械化を進め、北海道内でも有数の酪農・水産業の町へと変貌してまいりました。そして、令和5年11月10日、町は町内10団体と共にゼロカーボンシティ宣言を行い、これまで培ってきましたバイオガス事業のノウハウを生かすとともに、北海道大学大学院との共同研究などにより脱化石燃料社会の構築に一步を踏み出しました。

オホーツクの海岸線に押し寄せる冬の使者「流氷」は、今年もきてくれましたが、その規模は最盛期の半分ともいわれるほど少なくなっています。この流氷を目安として、私たちは先人の方々から受け継いだ興部町を守り発展させていきたいと考えています。

この要覧は、こうした興部町の姿をまとめたものです。ご覧いただき、興部町の思いを感じていただければ幸いです。

町名由来

町名の「おこっぺ」はアイヌ語「オウコッペ」より転訛したもので、「川尻の合流しているところ」の意であり当時は、興部川、藻興部川が合流しオホーツク海に注いでいたところから、このように呼んでいたとされています。

町旗



興部 (OKOPPE) の頭文字の「O」と「P」を図案化したもので、群青はオホーツク海の厳しい風雪に耐えながら伸びゆく興部の姿を表し、地色の乳白色は乳牛を主体とする酪農を意味しています。また、「P」の形は漁船を、「O」の円は町民の親和と総力をイメージしています。

町章



輪郭の「北」の3文字は北見を表し、緑の色彩は平和にして発展の状態を示しています。中央の「興」の字は本町名の頭文字をとり真紅の色彩は赤誠と熱意を表したものです。



興部町豊野地区の放牧風景

農業

Agriculture



興部町の農業は、食生活の多様化による需要拡大と豊かな土地資源を活かしながら持続可能な酪農・畜産経営を目指し、省力化と生産性・収益性向上を図るため畜産クラスター事業等を活用し、コントラクター及びTMRセンターの整備を進め、生乳の需要拡大では、酪農家が、牛乳・チーズ・ハム・ソーセージ等を高品質の食品に加工して乳肉製品の製造・販売を行うなど、国内への畜産物の供給のみならず、幅広い関連産業とともに、地域の雇用や経済を支える重要な基幹産業として大きな役割を果たしています。

平成23年に興部農業協同組合と雄武町農業協同組合が合併して北オホーツク農業協同

組合が発足し、令和3年3月には、新規就農者の確保を目的とした研修機能付き生産牧場「Farm to-mo (ファームトモ)」が完成し、広域的な地域農業の振興を図るべく新たな取組を推進しています。

こうしたなか、本町の酪農畜産をさらに発展させるため、土地利用型農業の発展を図る「地域計画(人・農地プラン)」に基づき農業委員会を核として農地利用権の設定等を進めるとともに、効率的な農用地の集積を図り、草地基盤整備を推進して生産性向上に向けた取組を行っています。また、飼料生産・哺育・育成・堆肥化等の共同化・外部委託等の推進を図り、多様な農業担手の確保、新規就

農の支援、安全・安心な畜産物の生産を推進するため、飼養管理技術の向上や搾乳ロボットなど、高性能機械導入や家畜排せつ物の適正な管理利用を促進し、時代の変化に対応できる経営体の育成に取り組んでいます。

本町には、酪農に関する支援を行う町立の「オホーツク農業科学研究センター」があり、土壌中の肥料成分や牛が食べる牧草の栄養成分の分析のほか、牛の生乳や町内で製造された食品の細菌検査など、酪農に関するさまざまな研究や分析等を行っています。



1 オホーツク農業科学研究センター



2 雪印メグミルク株式会社 興部工場

3 興部北興バイオガスプラント

環境

Environment



バイオマス液体肥料「おこっぺバイオ」

家庭菜園や花の肥料など一般家庭でも利用できます。道の駅・JA北オホーツク・沙留漁業協同組合で販売中。

興部町は、豊かな自然や豊富な資源に恵まれた、一次産業が盛んな町です。この豊かな環境は、過去から引き継がれてきたものであり、この先も受け継いでいかななくてはならない大切な資源です。

19世紀の産業革命以降、急速な工業化が進み、二酸化炭素等の温室効果ガスの排出による地球温暖化の進行が顕著に見られるようになりました。本町においても温暖化による海水面の上昇、流氷が接岸しなくなるなど漁業への影響、また、農業生産基盤の変化など産業基盤への影響も懸念されていることから、地球に暮らす一員として地球温暖化対策を進めていかななくてはなりません。

本町は古くから環境に関する取組を進めており、平成11年には地域に有望な新エネルギーを導入すべく「新エネルギービジョン」を策定。2年後の平成13年には、オホーツク地域では初となる興部町風力発電所(現在廃止)を導入し、公共施設へ再生可能エネルギーの供給を始めました。

平成20年以降は、地域に賦存する家畜ふん尿などのバイオマス資源に着目し、地域資源を活用したバイオガスプラントの導入に向けた調査・研究を行い、平成23年のバイオスタウン構想策定に至ります。

平成26年には、バイオマス資源を活用した環境に優しく災害に強いまちづくりを目指す「バイオマス産業都市」に認定され、平成28年には町営の興部北興バイオガスプラントが稼働。バイオガスプラントを中心とした環境に優しいまちづくりを進めています。

バイオガスプラントでは、家畜ふん尿を主原料とする良質な肥料「バイオ液肥」の生産を行っています。「バイオ液肥」は、肥料散布時の環境負荷と臭気の低減に効果的で、生産過程で発生する「バイオガス」は、発電利用が可能です。このことから、地域資源からのエネルギー供給が可能となり、化石燃料代替として利用できるため、温室効果ガス排出量の削減につながっています。

本町ではさらに、大学や研究機関等と共同

研究して、この「バイオガス」の先端技術による地産地消・環境負荷低減に関する取組も進めています。

環境に関する取組は、町民一人ひとりが考え、行動に移していくことが重要です。興部北興バイオガスプラントでは、一般家庭から排出される生ごみや下水道汚泥も有効な資源として全量の回収と受け入れを行い、町民と協働で運営しています。

さらなる加速に向けた取組として、令和5年11月には、町内事業者・団体と共同で、2050年の温室効果ガス排出量実質ゼロを目指すために「ゼロカーボンシティ」を宣言し、計画の策定や具体的な施策の実施など、全町をあげて温室効果ガス削減を進めています。

INTERVIEW
01

目指す酪農から、目指される酪農へ。社員の自主性を生かす環境を整え、新規就農を目指す方も全力で応援しています。

興部町住吉地区で昭和初期から代々酪農を営む家に生まれた私は、職業として酪農の道を歩むことについて、回り道をするくらいならすぐにその道を歩もうと迷いなく家業を継ぐことを決めました。就農したばかりの頃は、幼いときから酪農の仕事を見てきたにも関わらず、酪農業の幅の広さに驚きました。それから14年が経過した平成23年12月、ここを訪れる人、ここで働く人、この牛たち誰もが魅了される牧場づくりを目指し、「魅せる牧場であり続けること」を経営理念に法人化しました。酪農を志す人の受け皿を地域と共に築いていきたいという想いから、TMRセンターの立ち上げにも携わり、地域に根ざす牧場として地域活性化の取組も行っています。次の代へ「足腰の強い興部酪農」のバトンをつなぐため、自分がこの牧場で働きたいと思える環境づくりと経営に取り組み続けます。



株式会社笹岡牧場
笹岡 拓仁さん

水産業

fisheries industry



③さけの水揚げ風景(沙留漁港)
④興部漁港 ⑤沙留漁港
⑥興部第二さけ・ますふ化場

興部町の水産業は、興部・沙留2つの漁港を中心に、ホタテ、サケ・マス、毛ガニなどの沿岸漁業が基幹産業となっています。安定した漁家経営のためには、安定的な漁獲量・漁獲高が重要となることから、時化等による漁場被害を最小限に防ぐために、ホタテ貝漁場の監視・管理を随時行うことで災害に強い漁場づくりを推進し、水産資源の根拠となる森林・河川を含む環境保全活動の取組を進めています。

また、資源培養と増養殖管理体制を確立するため、サケ・マス資源確保のための孵化・放流

事業を推進し、漁港内の海中飼育施設を用いて回帰率向上の促進を図り、清浄海水取水施設及び中間育成施設による鮮度の向上や健康的なホタテ種苗・稚貝の生産、効率的な放流によるホタテ資源の増大に取り組んでいます。さらに、海洋環境の変化に対応するため、陸上養殖の可能性を調査検討し、漁業者及び水産加工業の経営安定化を図っています。

生産施設の整備においては、生産基盤となる衛生管理型漁港の早期完成を促進し、遠隔地への輸送の増加に対し、製氷・貯水施設の機

能充実による鮮度保持技術の向上を図り、漁港内生産施設と連携して、関連施設機能が十分に発揮できるよう適切な維持管理を行い、また、漁業活動の支障となる流木等の処理、密漁等の監視体制にも注力して、水産資源の保護に取り組んでいます。

漁家経営の健全化では、安定的な漁業収入に必要な知識・技術の習得、コスト改善等の指導を行うとともに、不漁時や事故に備え、共済・保険への加入を促進するなど経営基盤の強化を図り、融資制度等の利用を促進しています。

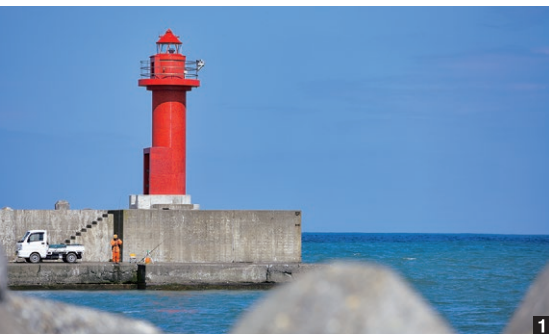
興部町の漁業を見てみよう！

ホタテは、地蒔きする4つのホタテ貝漁場を輪採制^{※1}にして海底で4年間かけて育成し、漁獲することで、安定的な漁業経営に寄与しています。

▶魚種別漁獲高(令和3年)

魚類		令和3年		貝類		令和3年	
		数量(t)	金額(千円)			数量(t)	金額(千円)
魚	さけ	2,445	1,870,363	ほたて	ほたて	20,383	2,666,763
	ます	68	32,227		その他	673	284,446
	ほっけ	103	4,725	うに(折)	うに(折)	435	645
	かれい	211	25,261		昆布	23,920	34,602
	その他	483	30,237				
水産動物	いか	12	6,069	第2位 令和3年漁獲金額 さけ 第1位 ほたて			
	たこ	254	199,612				
	毛ガニ	26	106,668				
	その他	11	43,542				

※1:漁場を区画に分けて(1区画が年ごと)、その年の漁獲可能エリアを順番に定め漁を行う方法。詳細は「興部町勢要覧資料編」をご覧ください。



1



2

①沙留漁港灯台 ②町内の水産加工場の作業風景

INTERVIEW 02 毛ガニ、ホタテをはじめ、魚介類がおいしい興部町。興部・沙留の海産物を食べてもらえると嬉しいです。

高校卒業後、鹿部町にある「北海道立漁業研修所」を修了し、漁業1年目はホタテ柵曳漁・底建網漁を行い、2年目から現在に至るまで秋鮭定置網漁を行っています。漁をこなすだけで精一杯の時期が終わり、安全性や効率等について考えられるようになりましたが、これまでの気持ちを忘れず、いかにして魚をとるか考えられる域に達するのが今の目標です。沙留漁業協同組合では、毛ガニやマスなど漁獲量が減少している魚種への対策を行っています。ほかの魚種も同様の対策を行い、持続可能な漁業を実現し、水揚げ量や漁業者の収入を向上できるようになることが、私が目指す未来の漁業の姿です。青年部では、漁業生産技術や知識の向上、地域の活性化などを目的に、漁港清掃・操船実習・ナマコ種苗生産・昆布の孢子撒き・祭りの神輿担ぎや出店・小中学校出前授業などを実施しています。



沙留漁業協同組合青年部
部長
山田 照寿さん



3



4



5 6



1 興部町朝日地区の森林 2 3 「豊かな緑と海を育む森づくり事業」の様子



3

林業

forestry



本町の森林面積は25,610haで、土地面積全体の70.6%を森林が占めています。所有別では道有林が40.0%、町有林が5.6%、民有林が54.4%と、オホーツク管内西部流域の森林面積の13.4%に当たります。また、本町の森林面積の88.0%が森林認証を取得していることから、認証材の安定供給により環境に配慮した森林から生産された木材・木製品として付加価値の向上を図り、消費者に対しても、環境材としての理解と利用を促進していくことが必要となっています。

健全な森林の育成を図るため、オホーツク総合振興局西部森林室等と連携して計画的な森林整備を行うとともに、生産性の向上に向けて林業専用道等の基盤整備を進めています。また、地球温暖化の緩和機能など、豊かな自然環境を支える森林を次代へ引き継ぐため、水源涵養林等の機能維持を中心とした森林の保全に努めるほか、令和元年より国から譲与されている森林環境譲与税を活用し、林内に放置されている未利用材を活用した木質バイオマスの推進や、二酸化炭素吸収能力の高い

苗木を植栽するなど木材の付加価値化の推進により流通を促進しています。また、ホタテやマス・サケなどの栽培漁業振興方策として、オホーツク海に注ぐ水をきれいにし、山と海を結ぶ河川周辺の森づくりを進めるため、興部町AD連合会共催のもと、漁業・農業・林業関係者、興部中学校生徒などが参加して植樹を行う「豊かな緑と海を育む森づくり事業」も毎年開催しています。



興部町の特産品は、乳製品や海産物が有名ですが、その他の食品・加工製品などもつくり手が厳選する材料からこだわりを持ちつくられています。

商工業

Commerce & Industry



中心部の空洞化や空き店舗対策など、これまで以上の知恵と工夫による対策と、既存商業店舗を含むまちなかの再生に向けた環境整備が必要とされるなか、起業を目指す個人や事業の継続発展を目指す地域の小売店及び事業者等を支援するため、商工会及び金融機関と連携を図り、国や北海道の支援制度の積極的な活用のほか、要件に合わせた支援を行い、商業・商店の維持と新たな企業の促進に取り組んでいます。また、質の高い地場特産品の販売活動の強化と、観光客のニーズに応えるため、「道の駅おこっぺ」を中心に農業・水産業などの基幹産業及び観光振興事業並びにふるさと応援寄附事業と連携して他地域へのPR活動を行うとともに、誘客による地元消費の拡大も進め

ています。工業においては、商工会と連携して基礎的経営指導の充実や融資制度などの活用を促進し、地場企業の育成・支援を推進しています。また、良質な地場特産品は地元ブランドとしての認知度が高く、町をPRする重要な役割を担うことから、製造・製品開発に対する補助事業など、産業振興関連の助成を行っています。観光においては、国道の分岐点として自動車等の通過者は一定程度見込めることから、通過・立ち寄り型の来訪者に対して、道の駅を活用した観光拠点づくりを推進するとともに、観光協会を中心に関係団体や事業者と連携を図り、地域産業や自然資源を活用した体験メニューづくりを進め、滞在型観光の促進に努めています。



1 道の駅おこっぺ特産品販売所の様子 2 興部町市街地の様子 3 興部町内のコンクリート工場

INTERVIEW
03

数々の賞や認証を受け続ける12種類のチーズの秘密は生乳。
目標は、世界に通用する乳製品を通して、持続可能な農業の実現。

私の父(会長)は「原料に勝る技術なし」を信念に、30年以上にわたり土壌に化学肥料を投与しない炭素(有機)循環農法を実践し、一年を通して発酵した牧草を牛に与えることで、旨味と香りの良い生乳を生産しています。この生乳でチーズをつくりたいと希望したところ、北海道大学副学長を務めた大叔父の紹介で、大手乳業会社でチーズの神様といわれた技術者から指導を受け、平成14年12月にチーズ工房を併設する宿泊施設を開設し、ファームインとチーズづくりを始めました。平成18年には乳処理加工場を建設して牛乳やソフトクリームなどの製造も始め、加工・販売部門を法人化。平成24年には加工施設等の整備を支援する、農水省の6次産業化事業の指定を受けて工房を拡充し、生産部門も法人に統合しました。目指す6次産業の姿は、当社の取組が地域活性化につながり人を呼び、知名度を上げていくことです。



有限会社富田ファーム
小林 佳子さん・小林 仁さん

教育・文化

Education & Culture



情報化やグローバル化が加速度的に進展し、日常生活や価値観が変化し続ける現代社会において、本町では、より変化する社会へ対応できる知識や技能・対応力、資質や能力を身に付けるための施策を推進しています。

学校教育においては、小中学校教育や各種教育活動の充実や新しい生活様式に基づく教育施設の整備、学校・家庭・スクールカウンセラー等の機関が連携して情報共有し、個々に応じた取組を進める教育相談業務、特別支援教育支援員を配置する特別支援教育の推進、地元の食材と特産品を活用した学校給食や学校保健の充実、さらに、児童・生徒の安全体制を図るために交通安全学習や避難

訓練を実施しています。また、幼児教育から小・中学校、高等学校まで一貫した教育方針に基づき、総合的な教育環境づくりの向上を図り、地域においては授業参観や学校生活の様子を見学できるオープンスクールの日を設けて教育活動を公開し、開かれた学校づくりの取組を行っています。ALTとの連携や中学校教諭による乗り入れ授業の実施を進め、国のGIGAスクール構想に基づくICT教育では専門的な知識を持つ支援員を配置して、国際化、情報化に対応する教育を推進しています。

さらに、興部高等学校の魅力化を図る施策として、学校内に町営の学習塾「つなぐ」を開

設し、進学・就職に対応するサポートや地域と連携した探究授業などを実施することにより、魅力ある高校づくりに向けた支援に取り組んでいます。



興部保育所と学校法人はまなす学園 はまなす幼稚園を統合する「幼保連携型認定こども園」を整備中。



1「動いて爽快～大人の運動広場～」活動の様子 2興部町野球スポーツ少年団（興部ファイターズ） 3興部町最大の文化行事「総合文化祭」 4総合文化祭展示の様子



北海道興部高等学校生徒への支援策

地域連携校として、学校の魅力化や特色づくりを図る取組への支援を進め、教師の出張授業や遠隔授業を受けられる教育環境の充実も図られています。

1 入学時支援金補助

◆ 9,900円/月×12月 = 118,800円（対象：入学者のうち5月1日現在在学者）

2 通学費補助

◆ 片道4km以上、バス定期額の2/3（町外生徒も対象）

3 大学進学対策費補助

◆ 長期休業期間中、予備校講習参加に伴う受講料及び宿泊料の補助

4 大学入学一時金

◆ 大学（短期大学及び通信制を除く）に進学する生徒に対し、50万円を支給（現役入学に限る）

5 部活動補助

◆ 練習試合等のバス借上料や宿泊料等を補助

6 教育活動実践補助

◆ WEB学習コンテンツ使用料等
◆ 各種模擬試験・検定試験受験手数料の一部補助

7 修学旅行補助

◆ 2年生の修学旅行経費に対し、1人当り30,000円を補助

8 魅力化事業

◆ 公営塾を開設：進路支援・学習支援等の公営塾の運営

9 タブレット支給補助

◆ タブレット（パソコン）を現物支給

10 教育委員会からの直接補助

◆ 全道大会遠征費の半額補助
◆ 奨学金制度：月額1万円（給付型）※成績要件・経済要件有り

1興部町立興部小学校1年生の授業風景 2興部町立興部中学校吹奏楽部練習風景 3未就学児童施設は「はまなす幼稚園」「興部保育所」「沙留保育所」の3施設 4興部町立興部中学校3年生の授業風景



INTERVIEW
04

1人でも多くの町民の方に「興部に生まれて、住んで良かった」と思ってもらえる「まちづくり」の一翼を担ってみたいです。

福祉保健課からお声かけいただき、令和元年12月に民生委員・児童委員に就任しました。担当区域住民の生活上の悩みや相談を受けて行政へとつなげたり、学校訪問や小学生の通学見守りなど子ども達の成長に関わる「地域の見守り役」として活動しています。委員にならなければ知り合うことのなかった若い世代や高齢者世代の方と関わるのが自身の知識向上や成長にもつながり、やりがいを感じています。悩みに寄り添うことで、地域の皆さんに「生活しやすい町」と感じてもらえたらうれしいです。これまで、国民健康保険病院運営審議会・社会教育・社会福祉・教育審査会ほかいくつもの委員を歴任し、町の教育・医療・福祉に携わらせていただいています。娘と息子、私自身もこの町で生まれ育ち、興部の教育・福祉、地域の方の優しさに育まれて来ました。そのご恩返しが少しでもできたらと思っています。



興部町教育委員・
民生委員・児童委員
橋本 文さん



興部町社会福祉協議会 デイサービスの様子



1 興部町国民健康保険病院 2 興部町福祉保健総合センター「きらり」 3 興部市街の商店街で毎年9月に開催される「おこっぺ街中マルシェ」。空き地や空き店舗を利用し、商売だけではない人と人の交流の場と賑わいの場をつくり出す。令和5年は、町内外から46の団体が出展。

保健・医療・福祉

Health & Medical & Welfare



保健対策においては、「興部町国民健康保険データヘルス計画」「興部町新型インフルエンザ等対策行動計画」に則し、介護予防や高齢者・幼児向け運動教室などの健康増進事業、妊娠・出産・育児期に対する母子保健事業、生活習慣病予防特定検診やがん検診などの各種検診事業、乳幼児・高齢者向け定期予防接種等、感染予防対策の充実を推進しています。医療体制の確保では、「新興部町国民健康保険病院経営強化プラン」に基づき、地域医療の基盤的役割を担う国民健康保険病院において、地域医療体制の確立、医療機関相互の連携、保健・福祉等との連携、医療制度改革への対応、医療

機器等の整備、医療従事者の確保、救急医療体制の充実に取り組んでいます。地域福祉においては、社会福祉協議会をはじめ、各地区の民生児童委員や自治会が地域福祉の担い手として住民相互に支え合う活動を展開し、子育て環境では、「興部町子ども・子育て支援事業計画」に基づき、幼保連携型認定こども園の整備、子育て世代包括支援センターの体制強化など、子育てに必要な環境整備を進めています。高齢者福祉では、「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」に基づき、老人クラブや各種レクリエーション団体の育成、在宅支援の充実、高齢者入居施設の整備等に取り組む、

地域包括ケアシステムの実現に向けて地域包括支援センター機能を拡充し、訪問型サービス・通所型サービスの提供やリハビリ短期集中サービスなど介護予防・生活支援サービスを推進しています。また、地域住民による高齢者の見守り活動や住民の交流の場として「サロン」など高齢者を中心とした活動支援も行っています。障がい者福祉では、「障がい者基本計画」「障がい福祉計画」に則し、地域自立支援協議会を設置するとともに、実態やニーズに応じた支援の提供を図り、社会保障制度においては、医療給付事業の推進など、給付と負担のバランスのとれた安定的かつ適正な運営に努めています。

住民生活 まちづくり・交流



Resident Life, Community Development & Interaction

道路・交通網の整備では、「興部町道路ストック舗装修繕計画」「興部町橋梁長寿命化修繕計画」に基づき、主要道路となる国道2路線、道道4路線の整備要請、町道248路線の整備と除排雪体制の充実、住民の移動交通手段となる住民スクールバスの維持・確保を行い、民間路線バスや鉄路・オホーツク紋別空港の利用促進を図るとともに、移動手段をもたない高齢者や障がい等のある人に、公共交通の整備を進めています。河川の整備と充実においては、本町には二級河川の興部川、藻興部川、瑠椋川、沙留川並びに各水系に町が管理する準用河川と普通河川があり、二級河川については道に適切な整備や維持管理の要請を行い、町管理の準用河川・普通河川においても同様の維持管理に取り組んでいます。情報通信網の整備では、平成22年度に町内全域で光ファイバー網を整備し、道の駅、小中学校を含む主要避難所にWi-Fi環境を整備し、平常時には公衆無線LANとして一般開放しています。

定住促進においては、「興部町住生活基本計画」「興部町公営住宅等長寿命化計画」に則して、民間住宅建設支援事業、保育料の軽減や子ども医療費の助成など子育て支援施策に取り組む、移住定住の促進、住民ニーズに対応する住宅の確保を進めています。「興部町下水道ストックマネジメント計画」に基づき、上水道においては町内全てが簡易水道区域であり、令和4年3月現在の下水道整備率は市街地83.0%、水洗化率95.8%、沙留市街地89.8%、水洗化率83.7%となっています。防災体制においては、「興部町耐震改修促進計画」「興部町公施設等総合管理計画」「地域防災計画」に基づく防災体制づくりに取り組み、情報伝達手段としてメール一斉配信システムを運用しています。また、多様化する災害への対応や、後を絶たない交通事故や巧妙化する犯罪に対応するため、消防・救急体制と交通安全・防犯対策・消費者保護対策の充実を推進しています。地域間交流においては、郷土興部の発展に寄与することを目的に、札幌市を中心に元在住の方が「札幌おこっぺ故里会」を昭和53年に設

立てて交流を図っています。また、町では、本町を第二のふるさと思い応援してくれる「おこっぺファンクラブ」の皆さまに町の1年間の出来事をまとめた冊子「おこっぺからの手紙」を年1回お贈りし、道内外の皆さまとの交流を行っています。



興部川河川敷地内(市街地)にレイアウトされた興部パークゴルフ場



興部町開基100年を記念して建築された総合センター。各種武道大会、コンサート、町民による芸能発表会などが毎年開催されています。

INTERVIEW
05

町の事業協力やグループ活動、ベンチの会(ベンチ設置)や勝手にサポート隊(老人施設での交流会)など、楽しみながら活動を続け、「異世代交流の場」として地域に浸透させたいです。

平成25年4月17日、町の事業「地域づくり懇談会」に参加した有志32名で、地域の支え合い活動を自分たちで実施する「おこっぺ町地域づくりサポートの会」を発足しました。「何がしたいか」話し合った結果、私たちが一番したいことは「いつでも、誰でも、気軽に立ち寄れる場所づくり」でした。平成26年10月に老人福祉センターの一角を活用して活動を始め、平成29年6月には町の補助を受けて町内の空き店舗を改装し、交流事業や手芸・麻雀・体操などの定期活動やサークル活動のほか、町民の憩いの場として開放する「ふれあいサロン『ほっと』」を開設しました。2名体制で対応しており、利用者に無理強いせず、明るく対応しています。会員の高齢化や会員数の減少など、不安材料や課題は多くなってきていますが、皆さん前向きに活動に取り組んでおり、挑戦する心を持っています。

おこっぺ町地域づくりサポートの会 事務局長 遠山 かおるさん



ふれあいサロン「ほっと」活動の様子



Michi no Eki Okoppe

道の駅おこっぺ アニュー・ジョイパーク

道内29番目の道の駅として登録されている「道の駅おこっぺアニュー・ジョイパーク」は、JR名寄線の廃止に伴い、平成4年、旧興部駅跡地に興部交通記念複合施設としてオープンしました。町民の足を守るバスターミナル施設を兼ねる複合施設「アニュー」には、バス待合所や鉄道の歴史をテーマにした展示コーナーのほか、イベント館、特産品販売所があり、道内外から観光客や町民が訪れています。「ジョイパーク」と呼ばれる広い公園には、SL・D51の車輪のオブジェ、噴水や遊水路、芝生広場、ステージが整備され、町民の憩いの場として、また、夏まつりイベント会場として利用されています。「ルゴーサ・エクスプレス」はジョイパーク内にある、ディーゼルカーを改装してつくられた簡易休憩所&簡易宿泊所です。5月～10月の開設期間中は無料で利用できることから、ライダーやチャリダーに人気があり、多いときには1日20名以上の利用があります。



道の駅おこっぺバス待合室



おこっぺレンタサイクルは最大4時間まで無料

鉄道の歴史展示コーナー



Festival & Event

お祭り・イベント

花火大会や特産品販売など楽しい企画盛りだくさんの「おこっぺ夏まつり」のほか、個性豊かなイベントを開催しています。

イベント情報

- 8月 ▶ おこっぺ夏まつり
- 10月 ▶ おこっぺ牛乳(ちち)の里マラソン大会
- 2月 ▶ ミニミニ冬祭り

興部町の歴史

宝永年間に松前藩の漁場として初めて歴史に登場した興部町。明治22年、沙留漁場支配人・金沢石松と総船頭・垣下岩松が沙留浜に定住越冬した史実をもとに、この年を「興部開基の年」としました。



郷土資料館



開拓発祥の碑



米田御殿



百年記念碑

明治	22年	沙留に初めて和人が定住越冬(興部町開基)	平成	元年	米田御殿が興部町歴史的遺産第1号に指定される
	35年	沙留・興部に尋常小学校設置		2年	カナダ・アルバータ州ステットラー町と姉妹友好都市提携を結ぶ
	42年	興部外2ヶ村戸長役場開設、庁舎落成		4年	興部駅跡地に興部町交通記念複合施設「アニュー・ジョイパーク」がオープン
					オホーツク農業科学研究センター(通称 モーモー城)が完成
大正	4年	二級町村制が施行され、興部村となる	昭和	10年	9月、台風による大雨の影響を受け、河川増水により水道送水管が流出し断水が発生、また、床上・床下浸水が多数発生するなど、住民生活や産業に多大な被害を受ける
	10年	興部駅・沙留駅が開駅		15年	興部町福祉保健総合センター「きらり」が完成
昭和	2年	6月7日、興部市街地の大火により236戸が焼失		26年	バイオマス産業都市に認定される
	22年	学制改革により六・三制が施行され、興部・沙留・宇津・秋里・豊野に中学校設置		27年	興部町国民健康保険病院(現在)が完成
	26年	町制施行、字名地番改正		28年	興部北興バイオガスプラントが完成
	49年	役場・消防庁舎(現在)落成、町民憲章制定		30年	興部・沙留両中学校を閉校し、新興部中学校(現在)が開校
	51年	西紋地区環境衛生センターが完成し、西紋5市町村の「し尿処理」業務を開始			開基130年を迎え記念式典を挙行、沙留に開拓発祥の碑を建立
平成	60年	国鉄興浜南線が廃止	令和	元年	旧沙留中学校の記念モニュメントが完成
	63年	開基百年を迎え記念式典を挙行、沙留に開拓発祥の碑を建立		5年	ゼロカーボンシティ宣言・ゼロカーボンアクション宣言
	元年	JR名寄本線が廃止され、代替バス運行が開始 開基百年記念・興部町総合センターが完成			

行政・議会

興部町では「第六期総合計画」に掲げる“ひと、まち、自然が調和するまち”の実現に向け、雄大なオホーツクの緑豊かな自然を大切にし、“魅力あるまち・選ばれるまち・住み続けられるまち”を目指し、本町を取り巻く環境の変化に適切に対応し、基本構想に掲げるまちづくりの実現に向けた取組が進められています。議会では、平成30年に議会基本条例を制定するとともに、議会報告会の開催や定期的に議会だよりを発行するなど、開かれた議会運営に努めています。

行政



町長 碓 一寿



副町長 推名 徹



教育長 畑山 研二



興部町議会議場

議会



議長 藤渡 昭博



副議長 竹内 清



興部町庁舎